

B 74 全国小・中学生の着装に関する調査研究(第1報) - 衣服重量について -

信州大教育 ○関川信子 名古屋大 酒井清子
名古屋市立女短大 佐野炯子 神戸大教育 稲垣和子
東京学芸大教育 中橋美智子 帝塚山学院短大 華岡政子
和歌山大教育 福本富美子 福井大教育 松尾みどり
元福島大教育 高橋キヨ子

目的 現代の衣生活は、時代の推移に伴い、衣料事情も多様化を極め、一般の着衣習慣が従来に比較して変化してきている。その中で成長期にある小・中学生の着衣の実態を把握し、被服衛生学的観点より、健康増進に役立たせる資料を得ることは重要であると考へ本研究に着手した。

方法 本調査は、被服構成学研究会の共同研究として、1979年～1980年にわたり1年間、全国5地区(北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国)に居住する小学生5・6年男女約2300名、中学生1・2年男女約2000名について、四季にわたり(年四回、4月、7月、10月、1月)実施した。

調査内容は、1) 性 2) 体格 3) 衣服重量 4) 寒暑感覚 5) 衣服枚数 6) 衣服構成(重ね方) 7) 被服材料等とした。

調査方法は、自記記録式アンケート法により、タックワセレクトア検索機およびHIT-AC10-2によって全国集計を行った。

結果 春季衣服重量は、夏季衣服重量の2倍弱で、男子と女子では男子の方が女子よりも衣服重量はやや大の傾向がみられた。尚単位体表面積当りの夏季衣服重量は、小学生は中学生に比較して約140±10%小となる。この他肩および腰にかかる荷重分布の検討、年間における衣服重量の動向、地区別の比較などについても若干の成績を得たので報告する。